

コーディネートにより気づきを広げる

単元でねらうこと

(1) 児童が素材の特徴に目を向ける。

おもちゃづくりをするために集めた木の実や葉に十分ふれ、動きの面白さなどの特徴に気付くことができるように、前単元「たのしいあきがいっぱい」では、自然物とふれあう時間を十分確保したい。繰り返し秋探しにでかけ、自然物との出会う中で、木の実や葉にもさまざまな種類があることや木の実と木の葉を関連づけるなど多様な見方ができるようにしたい。

(2) 称賛や児童の相談内容をグループまたは全体に知らせていく。

おもちゃの試し遊びや改良する活動の中で、アイデアのよさ、自然物の面白さや不思議さへの気づき、さらに困っている児童への称賛や相談内容を、担任がグループまたは全体に知らせていく（コーディネートする）ことで対話が生まれ、友達によさに気付いたり、認めたりできるようにする。



子どもが用いるであろう見方・考え方

○自然物を遊びに生かす見方

- ・自然物の特徴
- ・おもちゃのつくり方や遊び方

○ふれあいと交流の見方

- ・遊び方やルールの工夫

○比較・関係づけの考え方

- ・自分のおもちゃの比較
- ・友達のおもちゃの比較



授業の実際

技能の優れている児童を取り上げて他の児童に紹介したことにより、本人のよさが認められ、さらに教えてほしいという友だちとの対話が生まれた。また、アイデアを学級全体の場で称賛したところ、それぞれの対話が広がり、おもちゃづくりの意欲が高まった。困っている児童には、うまくできている児童を紹介したり、相談内容をグループや全体に知らせたりしたことで、自発的に解決の糸口を見つける姿が見られた。

さらに、2年生の「おもちゃまつり」に招待された体験が自分たちのおもちゃづくりの発想やヒントが生まれたことから、今度は幼稚園児との交流会に向けて、ルールや遊び方を簡単にするなど相手意識をもって準備を進める姿が見られた。自分のおもちゃに自信をもって紹介したり、園児を褒めたりできた。異学年と繰り返し関わってきたことは、生活経験の積み重ねを生かして主体的に活動できるようにするなど有効であった。

(H30 滝根小 松崎)

単元構想図 1年生活科「おもちゃを作ろう」（総時数12時間）

前単元「たのしいあき いっぱい」

集めた宝物で遊びたいな。

1次 おもちゃをつくろう

はっぱやきのみであそぼう。

おもちゃがつくれそうだよ。楽器もつくれそうだよ。



どんなおもちゃができるかな。

どんぐりでこまをつくらしてみたいな。

どんぐりを転がすと迷路になるよ。

どんぐりでマラカスをつくらしてみたい。

松ぼっくりでけん玉をつくらしてみたい。

松ぼっくりで的当てができそうだよ。

あまり回らないな。転がらないよ。音が小さくて聞こえないな。

なかなか入らないな。どうすればいいかな。

友達と競争してみたいな。友達に見せたいな。

おもちゃをへんしんさせよう。

〇〇を変えてみよう。試してみよう。



数を変えてみよう。

大きさを変えてみよう。

長さを変えてみよう。

種類を変えてみよう。

入れ物を変えてみよう。

みんなで一緒に遊びたいな。友達のおもちゃでも遊んでみたいな。

2次 みんなであそぼう

もっとたのしくしよう。みんなでたのしくあそぼう。

〇〇さんのおもちゃは面白いね。つくり方を教えて。

遊び方のルールや約束を決めよう。場所も考えないと。

みんなの楽器で演奏してみたいね。

年長さんを招待したいな。年長さんと一緒に遊びたいな。楽しんでもらいたいな。

3次 いっしょにあそぼう

おもちゃたいかいのじゅんぴをしよう。

ねんちょうさんとたのしくあそぼう。

回数を決めよう。

時間を計ってみよう。

点数をつけよう。

「楽しかった」って言ってくれてうれしかったよ。